

# 令和元年度 一部車線規制を伴う社会実験に係るヒアリング調査結果(確定版)

## 1. 調査概要について

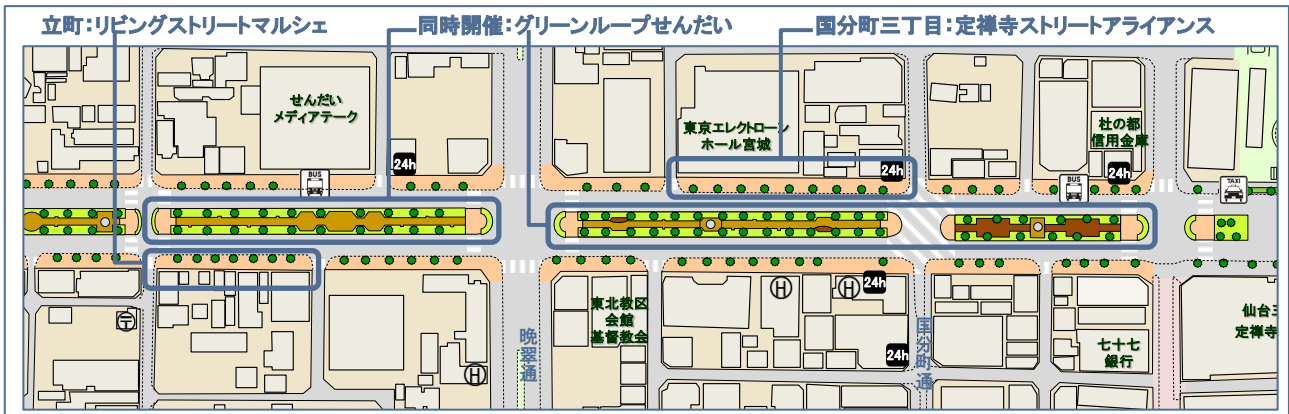
### 【目的】

仙台市では、平成 30 年 10 月に地元の関係者の方々を主体として設立された「定禅寺通活性化検討会」の一員として、都心部全体の回遊性を高め、街中のさらなる賑わいづくりにつなげていくことを目指し、定禅寺通やその周辺における新たな活性化策に取り組んでいる。

この取組みの一環として、道路空間の利活用によるにぎわいや憩いの場づくりの検討を深めるために実施した車道の一車線規制を伴う社会実験において、歩道等における利活用の取組みを体験されている市民、通りを通行している市民等に対し、ヒアリング調査を実施した。

### 【概要】

- ① 調査日：令和元年 10 月 18 日（金）～20 日（日）の 3 日間
- ② 調査時間：11 時～20 時（10 月 19 日は、雨天のため 14 時～20 時）
- ③ 調査方法：ヒアリング調査
- ④ 調査人員：各調査エリア（下記）に 1 日あたり 2 名ずつ 合計 8 名/日
- ⑤ 調査対象者：イベント参加者（テーブルでくつろぐ人、買い物・飲食を楽しむ人 等）、歩行者・自転車利用者などの通行人
- ⑥ 調査対象エリア：仙台市道定禅寺通線の下記（イベント実施エリア）



- ⑦ 調査項目：回答者の属性、当日の行動概要、社会実験に関する意見、定禅寺通エリアへの意向
- ⑧ 回答数：738 票

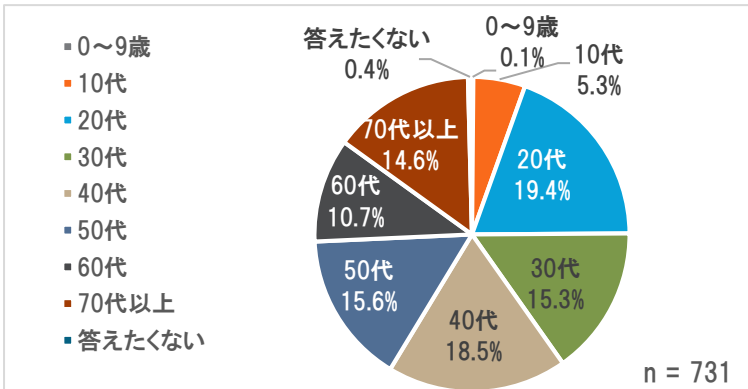
## 2. 調査実施状況

月 日	天 候	調査時間	回答数	イベント実施時間
10 月 18 日（金）	曇のち雨	11：00～20：00	251 票	立町 11：00～20：30 国分町 12：00～19：30
10 月 19 日（土）	雨のち曇	14：00～20：00 (雨天のため繰下げ)	161 票	立町 16：00～20：30 国分町 13 時 30 分から 20 時
10 月 20 日（日）	曇	11：00～20：00	326 票	立町 10：00～20：30 国分町 11 時から 19 時 30 分

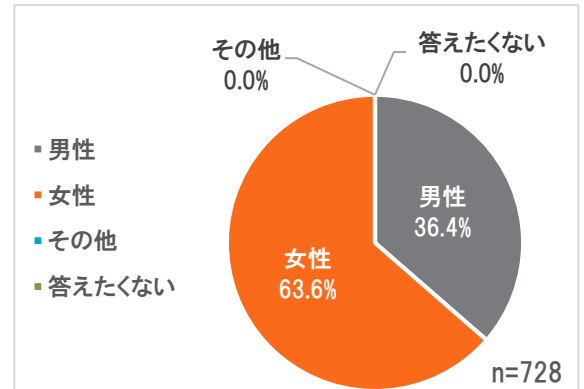
### 3. 調査結果

#### 3-1. 回答者(=来街者)の属性(単純集計)

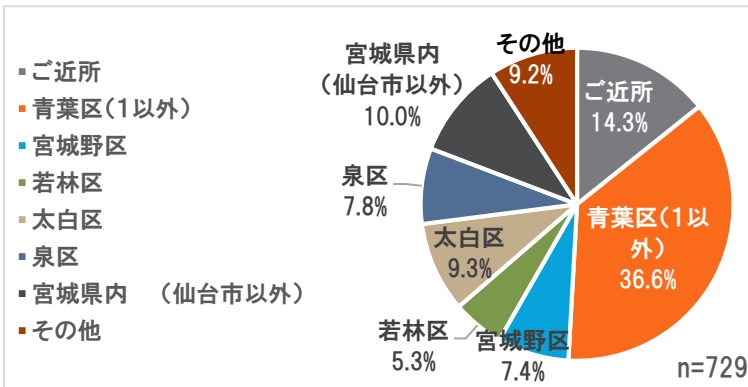
【年齢構成】



【性別】



【現在お住まいの場所】

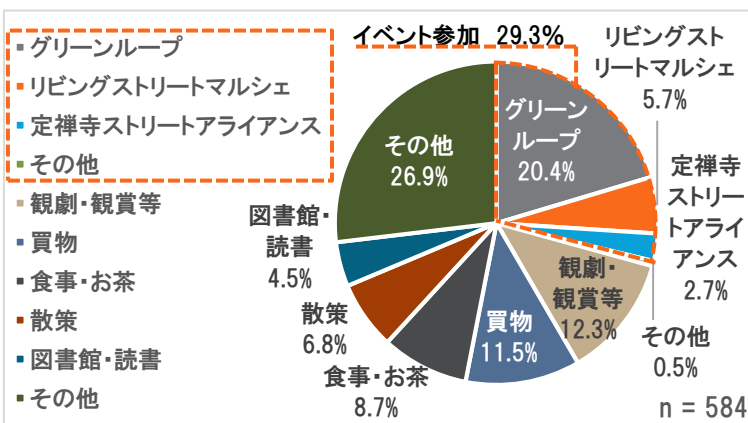


回答者の属性としては、20代以上の年齢の方は世代の偏りが見られず、女性が6割以上を占めている。

現在のお住まいの場所については、ご近所と青葉区の方が約半数を占めている。また市内在住の方が約8割を占めている。

#### 3-2. 定禅寺通エリアへの来街主目的

##### ① 全体(単純集計)



定禅寺通エリアに来た主目的について、約3割の人が「イベント参加」と答えている。

また、この3日間は宮城県民会館で有名劇団の公演があったことから、「観劇・鑑賞等」が主目的の来街者も多くなっている。

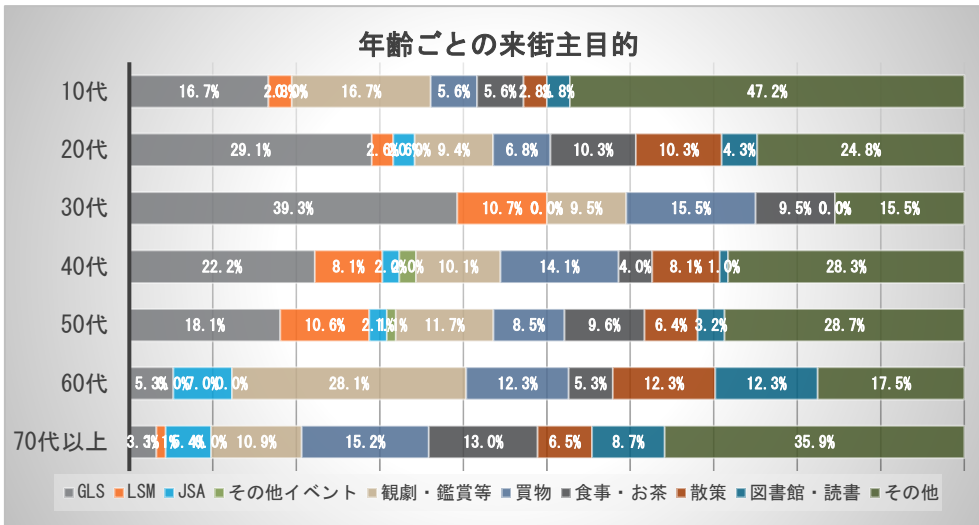
※以下、下記のとおり表記

グリーンループ=GLS

リビングストリートマルシェ=LSM

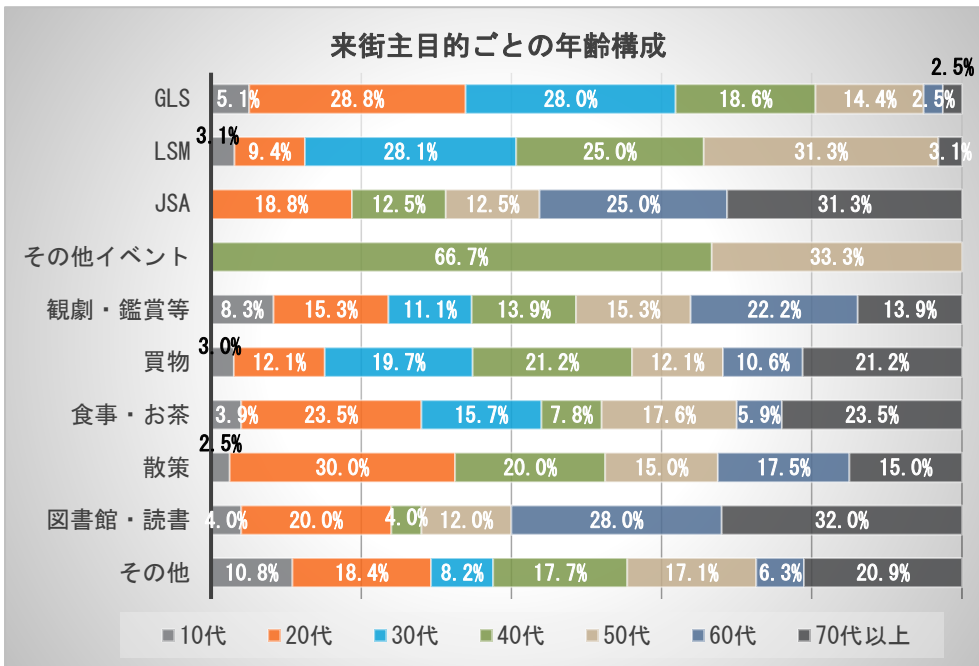
定禅寺ストリートアライアンス=JSA

## ② 年齢ごとの来街主目的



年齢ごとの主目的について、30代は約4割がGLSのために、また約半数がこれを含むイベント参加のために来街している。イベント参加のための来街については、20代、40代、50代が約3割となっている。また、60代は観劇・鑑賞のための来街が約3割を占めている。

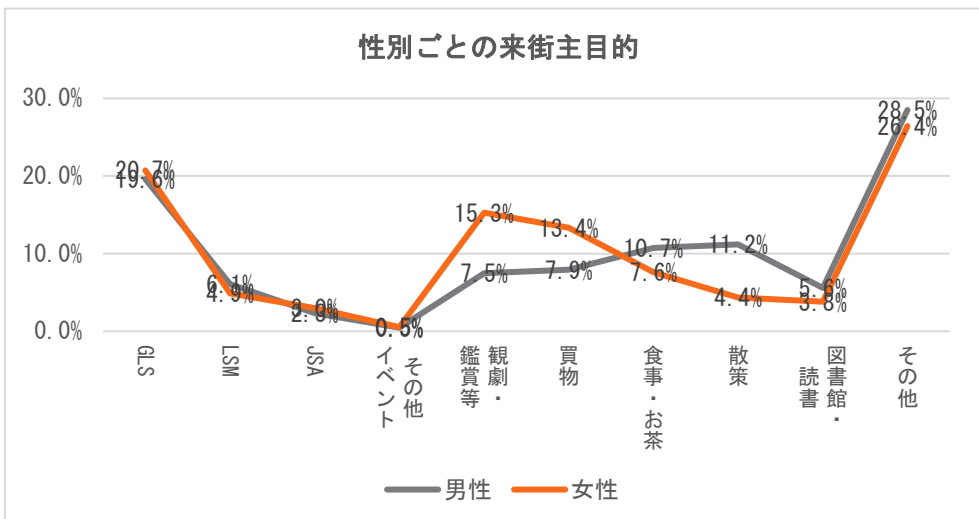
## ③ 来街目的ごとの年齢構成



来街主目的ごとの年齢構成について、GLSは20代、30代がそれぞれ約3割を占めており、LSMは30~50代がそれぞれ3割となっており、全体で8割以上を占めている。JSAは60代以上が約6割を占めているが、観劇待ちの方たちの利用が多かったことの影響が考えられる。

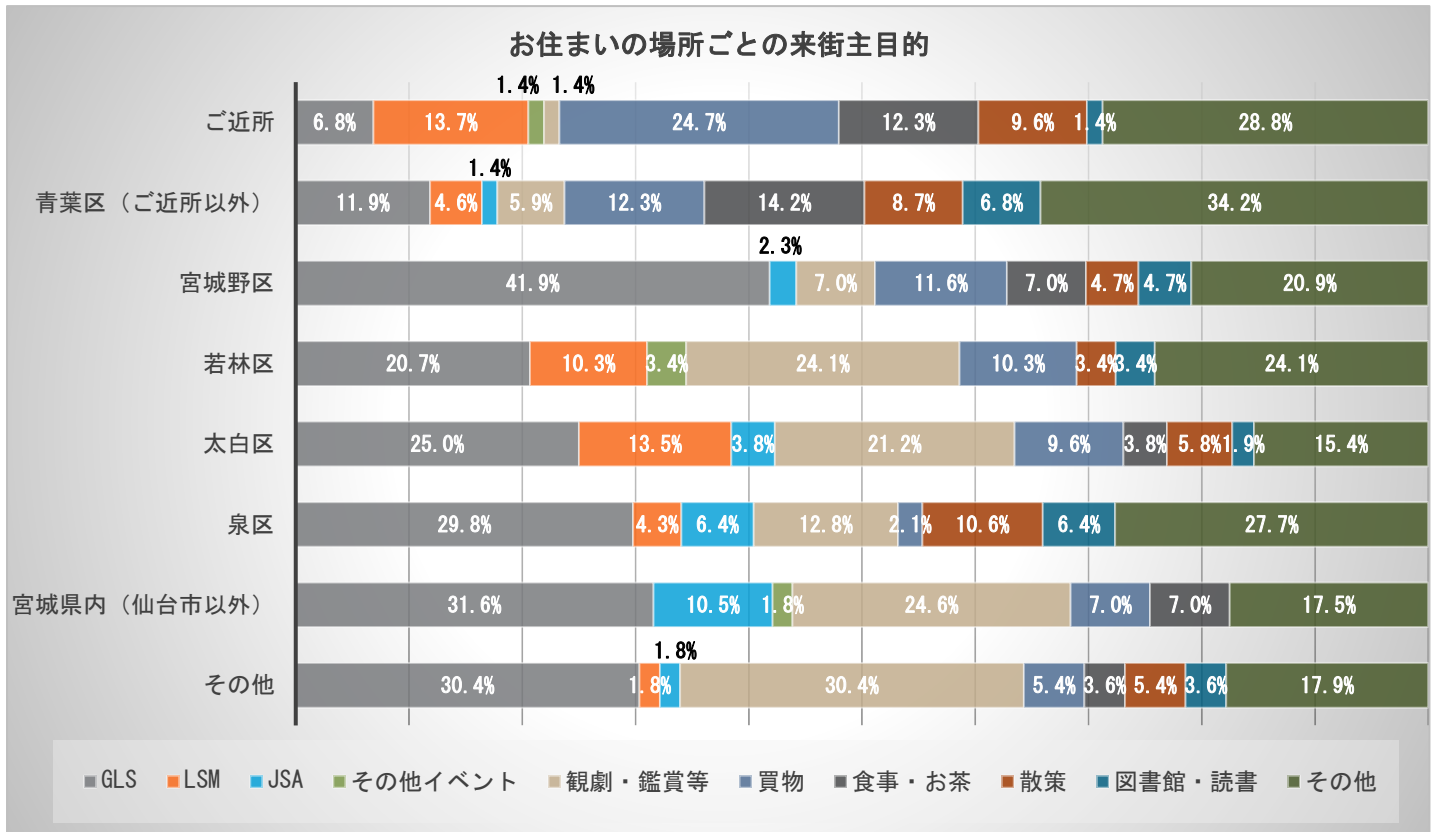
また、観劇・鑑賞のための来街は、60代がやや多いものの世代のばらつきがほぼ見られない。図書館・読書のための来街は60以上が約6割を占めている。

## ④ 性別ごとの来街主目的



性別ごとの来街主目的については、男性は食事・お茶、散策が多く、女性は観劇・鑑賞等、買物が多くなっており、イベント参加、図書館・読書については、性別による差は見られない。

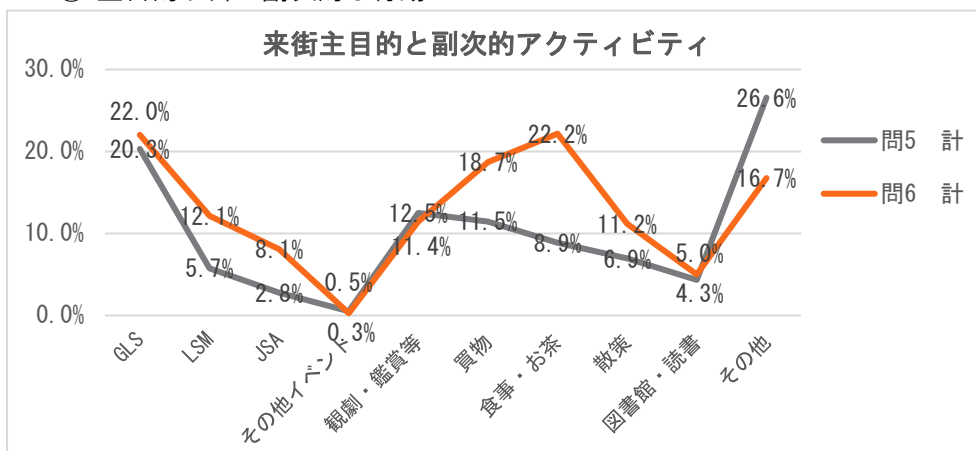
⑤ お住まいの場所ごとの来街主目的



お住まいの場所ごとの来街主目的については、ご近所の方は買物や食事・お茶が多く、日常生活上の理由が多くなっていると同時に、LSMの回答も多い。

宮城野区の方はGLSが4割以上となっており、若林区、太白区、泉区及び市外などの遠方からの来街者は、イベントと観劇・鑑賞等を目的と答えた方が6~7割を占めている。近所と遠方では来街主目的の傾向が異なり、遠方であればあるほど、来街への「ここでしかやっていない」等の目的が必要になってくることが推測される。

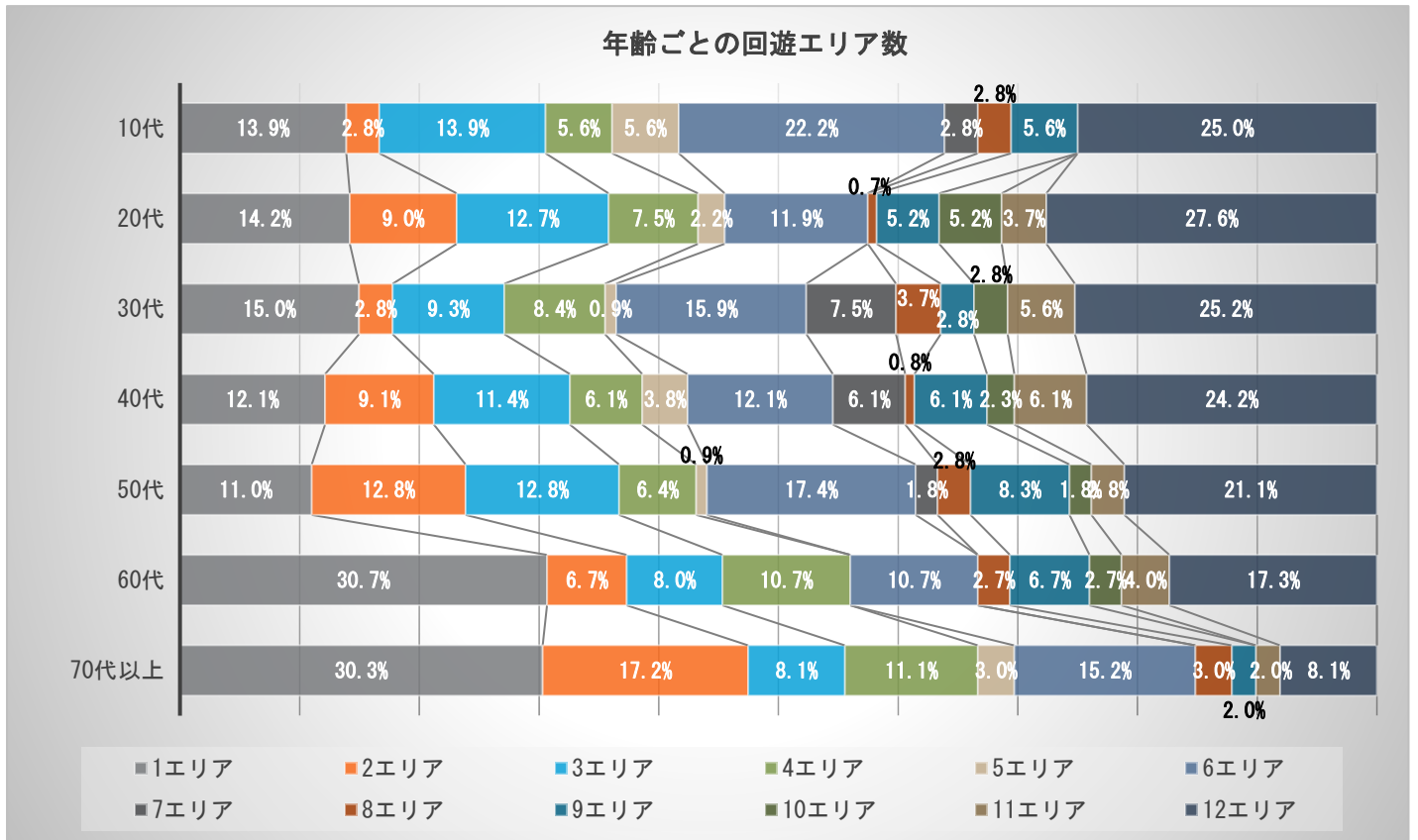
⑥ 主目的以外の副次的な行動



定禅寺通エリアへの来街の主な目的(問5)と、エリア内での過ごし方(問6)を比較すると、主目的以外の副次的なアクティビティとして買物、お茶・食事、散策をした方が多かった。また、イベントとしてはLSM、JSAに立ち寄ったことがうかがえる。

### 3-3. 来街者の回遊状況

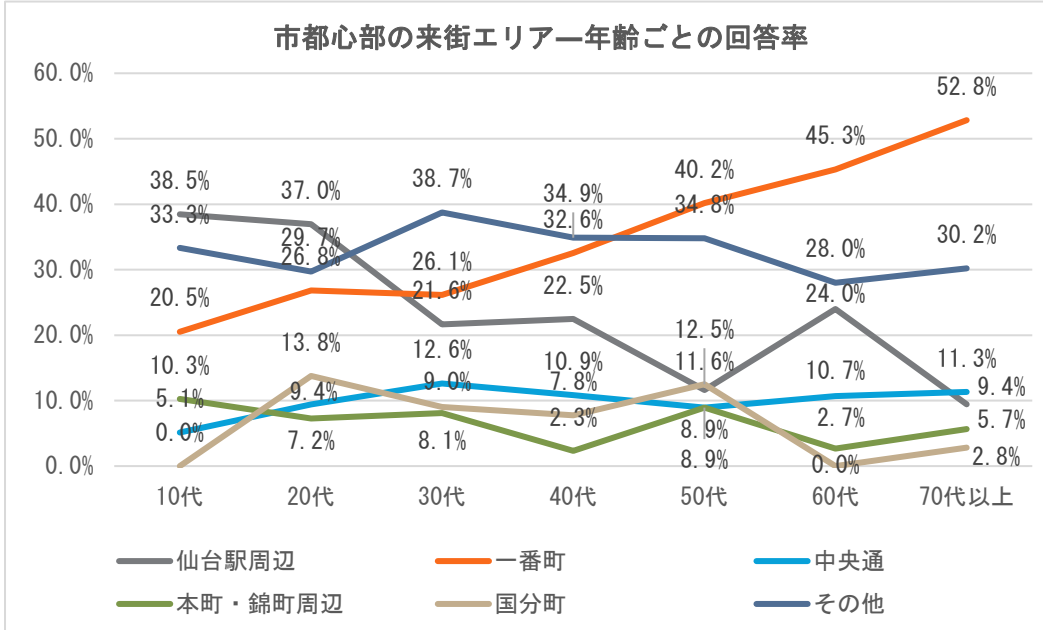
#### ① 年齢ごとの定禅寺通エリア内の回遊エリア数



定禅寺通エリア内における回遊エリア数※をみると、60代以上になると1エリアのみの回答が急増する。10～50代はいずれも、6エリア以上を回遊している方が半数以上となっている。

※回遊エリア数（最終頁参照）  
定禅寺通（晩翠通～西公園通）から2街区内のエリアについて、本調査上12エリアにわけ、そのエリアの何か所に行ったかを集計したもの。

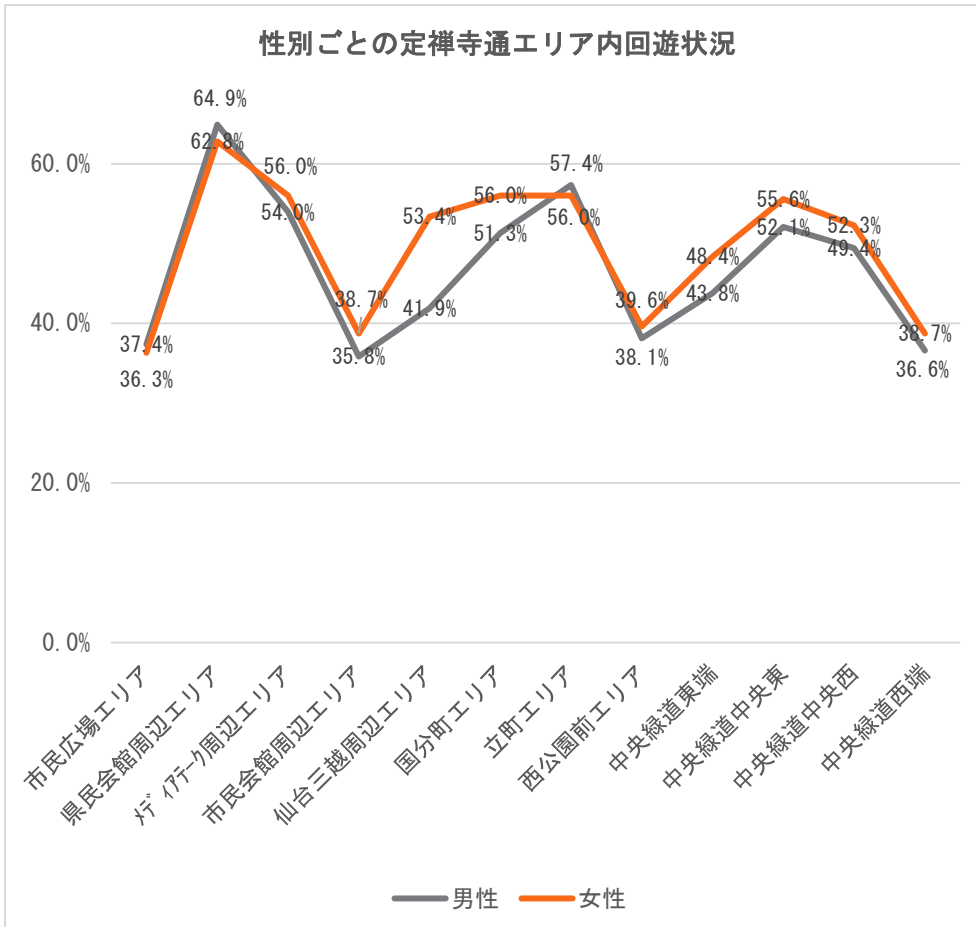
#### ② 仙台市都心部における回遊状況一年齢ごとの回答率



定禅寺通エリア以外に、当日に来街した（これからする）エリアについて、仙台駅周辺の回答率は年代が上がるごとに下がり、一番町※の回答率は年代が上がるごとに増えており、エリアごとに年代特性の違いがみられる。中央通※については、世代を通して約1割と少なくなっている。  
また、20～50代の1割前後が国分町と回答しているが、10代及び60代以上では回答が激減する。

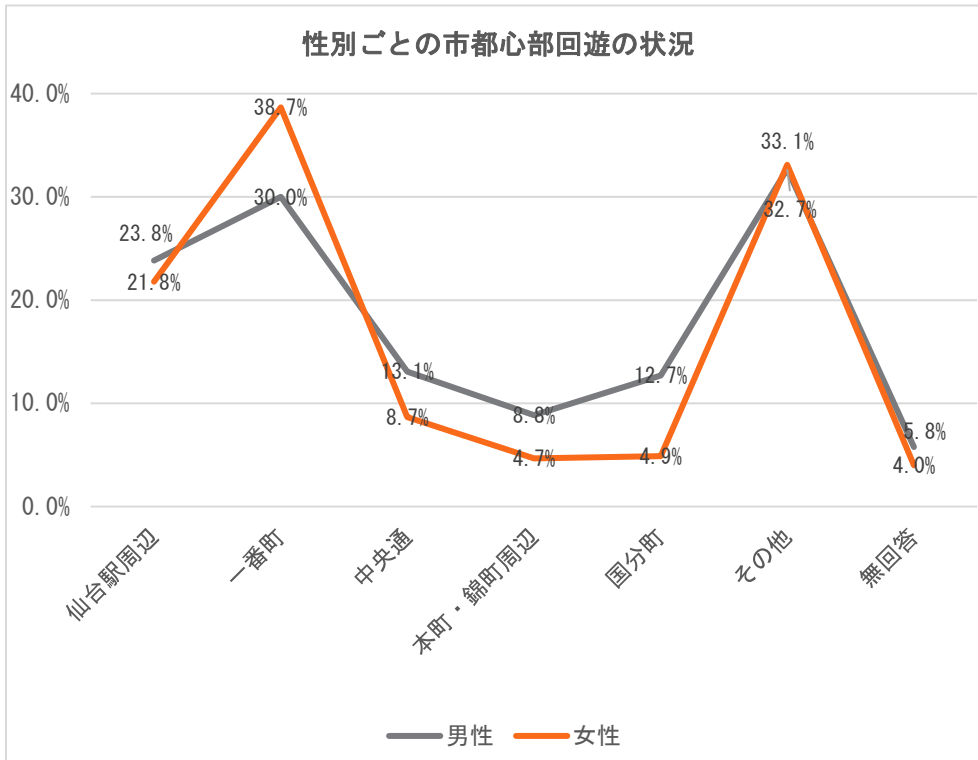
※調査票では上記エリアについて、下記のとおり記載  
一番町（四丁目商店街・サンモール・ブランドーム）、中央通（マーブルロード大町・名掛丁・クリスロード）

③ 性別ごとの定禅寺通エリア内回遊状況



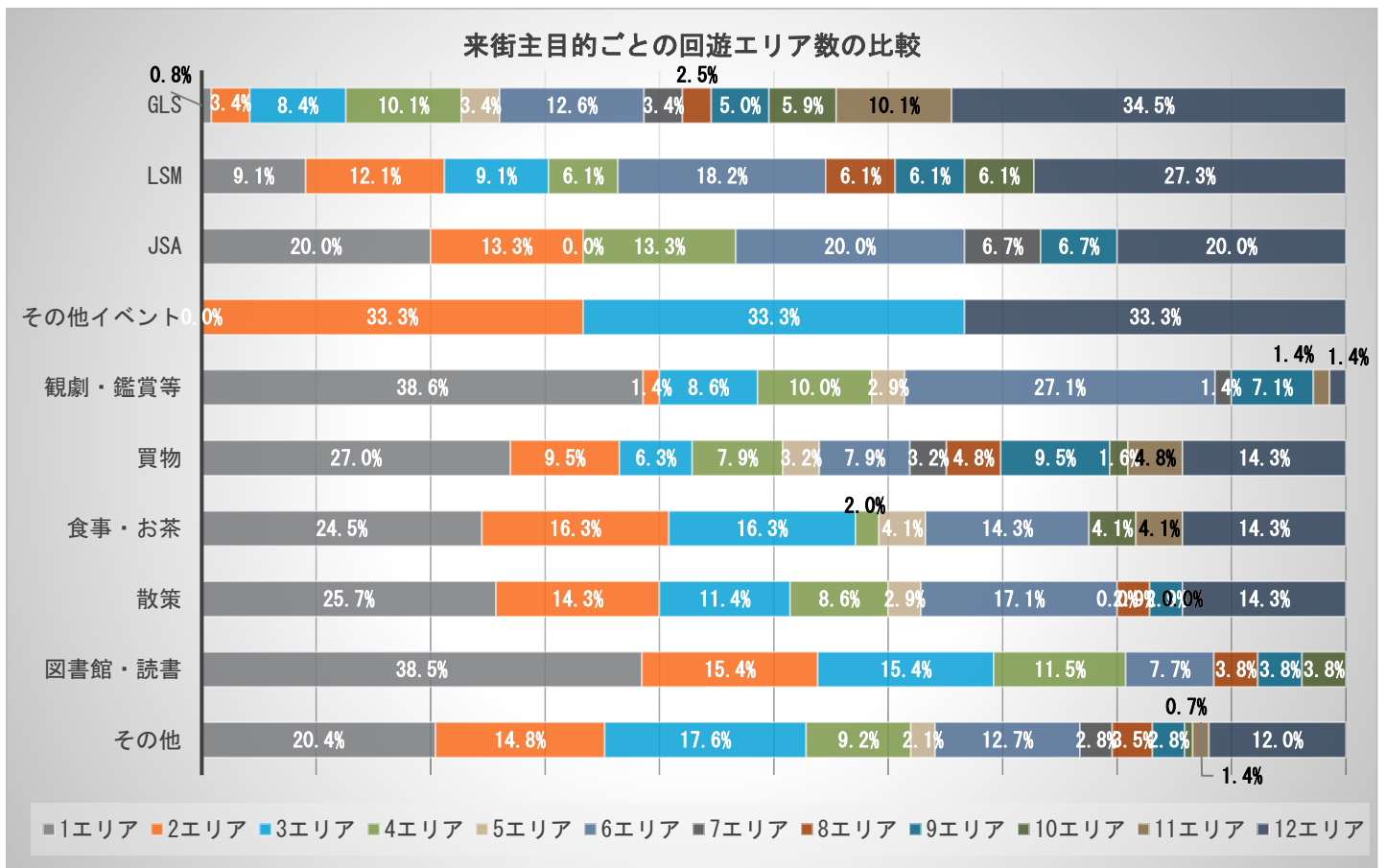
定禅寺通エリア内における回遊エリアについては、女性は仙台三越周辺エリアで男性より約10%多く、国分町エリア、中央緑道東端も約5%多くなっている。全体的に、男性より女性の方がエリア内を回遊している状況が見て取れる。

④ 性別ごとの仙台市都心部回遊状況



定禅寺通エリア以外に、調査日当日に来街した(これからする)エリアについて、一番町以外のすべてのエリアにおいて、女性よりも男性の来街が多くなっている。定禅寺通エリア内の回遊は女性の方が多くなっているが、都心部全体の回遊性は男性の方が高い可能性がある。

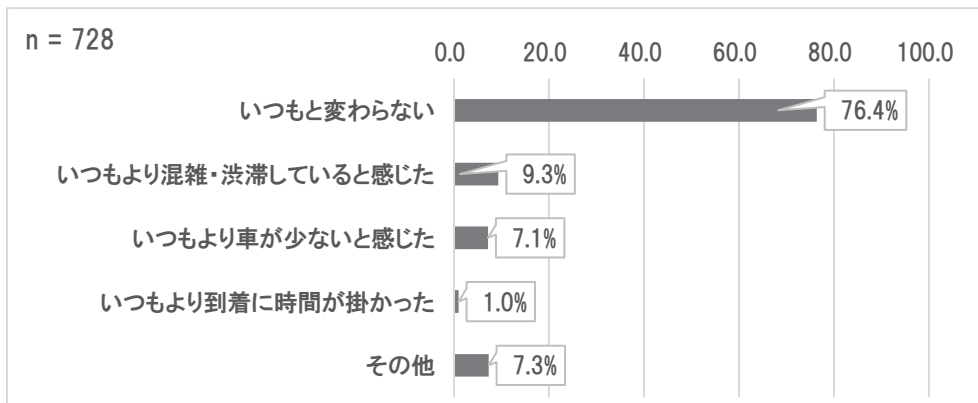
⑤ 来街主目的ごとの定禅寺通エリア内回遊エリア数



イベント（GLS、LSM、JSA）を主目的として来街している方は、それ以外が来街主目的であった方に比べて回遊エリア数が多くなっている。（イベント参加者はより広いエリアを回遊している）特に、図書館・読書、観劇・鑑賞等を来街目的としている方は1エリアにしか行ってない方が約4割を占めている。  
 イベントが回遊エリア数の増加＝回遊性の向上に寄与することが推測される。

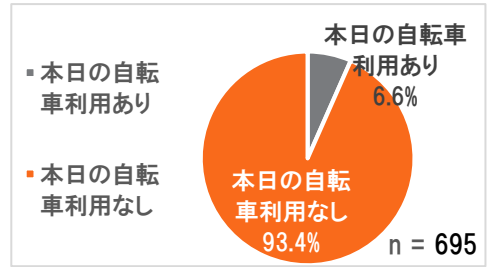
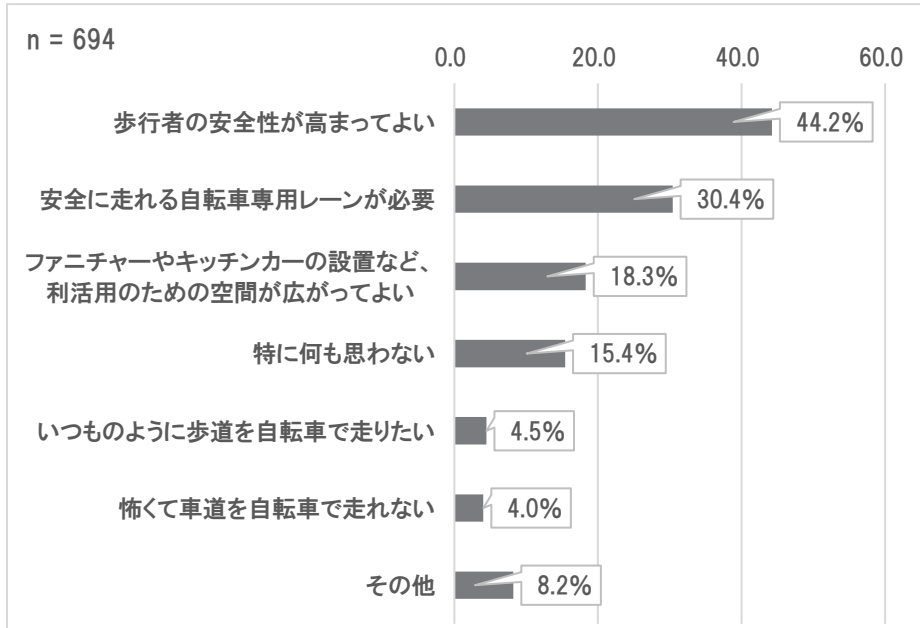
3-4. 車線規制・道路空間利活用に関する意向

① 車線規制による道路混雑等の交通環境の変化を感じたか（単純集計）



車線規制による道路混雑等の交通環境の変化について、約8割が「いつもと変わらない」と答えている。

## ② 自転車が歩道を走れないことについてどう思うか(単純集計)

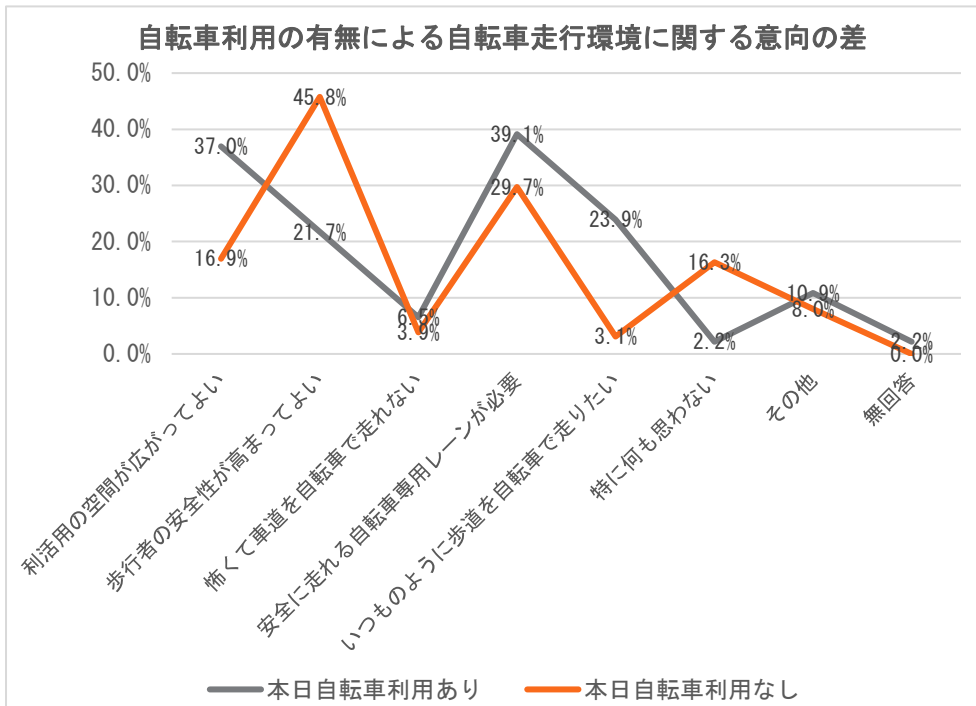


回答者のうち約 7%が、回答日当日の自転車利用があった。

自転車が歩道を走行できないことについて、回答者の約 4 割が「歩行者の安全性が高まってよい」、約 3 割が「安全に走れる自転車専用レーンが必要」と回答している。(普段は自転車も歩道走行が可能なエリアとなっている)

※調査日は、車線規制を実施したエリアにおいては、規制車線内に自転車走行帯を設けるとともに、歩道における自転車走行は不可とした。

## ③ 自転車が歩道を走れないことについてどう思うか—当日の自転車利用の有無ごとの回答率

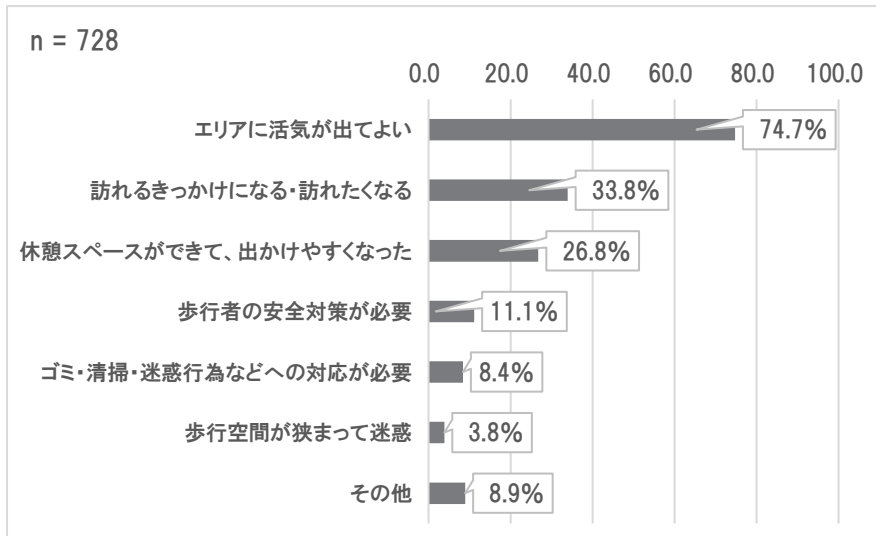


調査実施日のような歩道を自転車で走れない環境について、当日の自転車利用がなかった方は、歩行者の安全性が高まってよいとの回答が約半数を占め、約 3 割が安全に走れる自転車専用レーンが必要と回答した。

一方で、当日の自転車利用があった方は、安全に走れる自転車専用レーンが必要・利活用のための空間が広がってよい(約 4 割)の回答が多くなっている。



④ 歩道が本日のように(ファニチャーやキッチンカーの設置等)使われることについてどう思うか(単純集計)

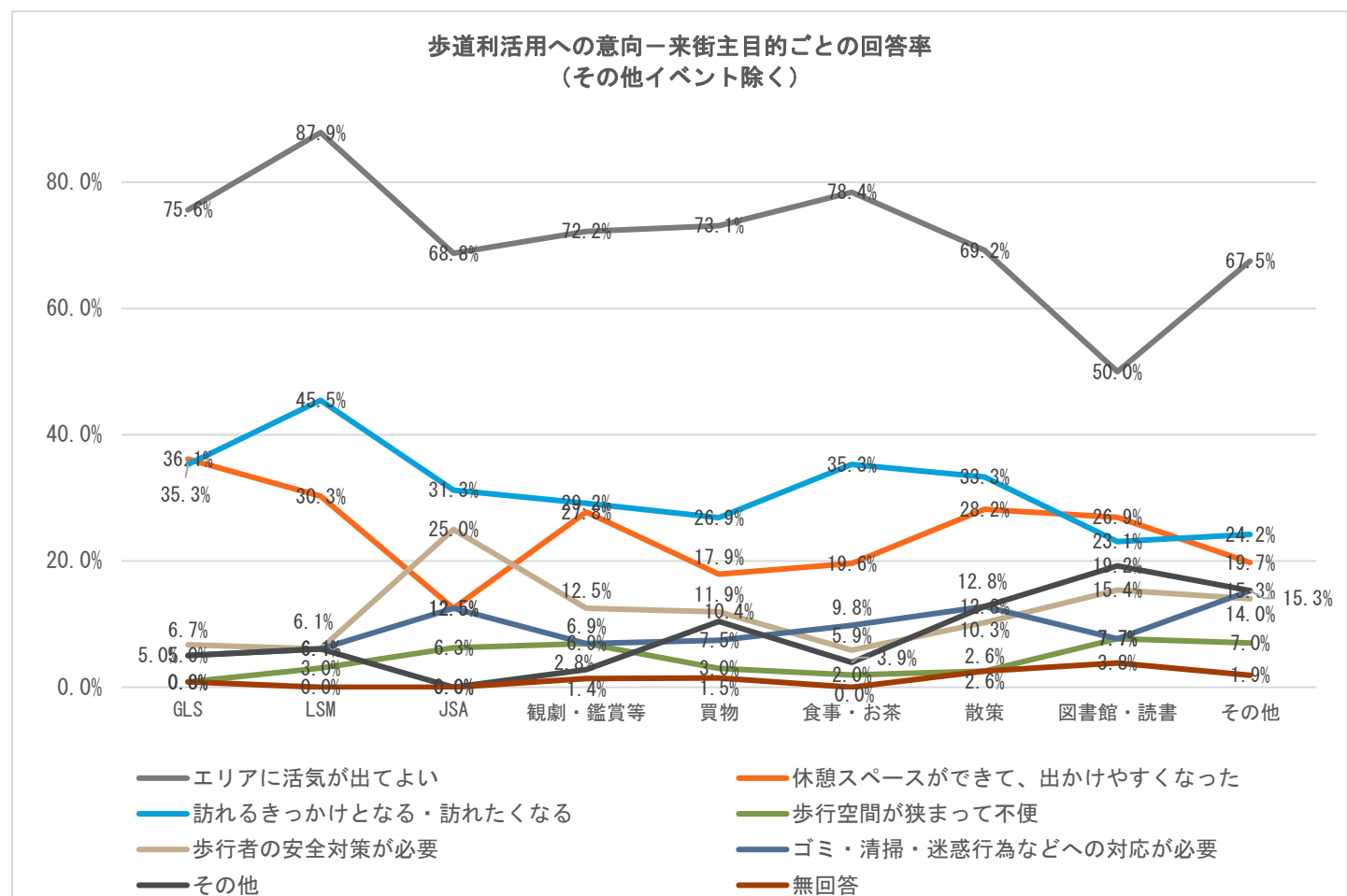


歩道の利活用について、回答者の7割以上が「エリアに活気が出てよい」、約3割が「訪れるきっかけになる・訪れなくなる」、「休憩スペースができて出かけやすくなった」と回答している。

一方で、約1割は「歩行者の安全対策が必要」、「ゴミ・清掃・迷惑行為などへの対応が必要」と回答している。

利活用の取組みについては、概ね良好と受け止められているが、大規模社会実験時には歩行者の安全対策等についても検討の必要性がある。

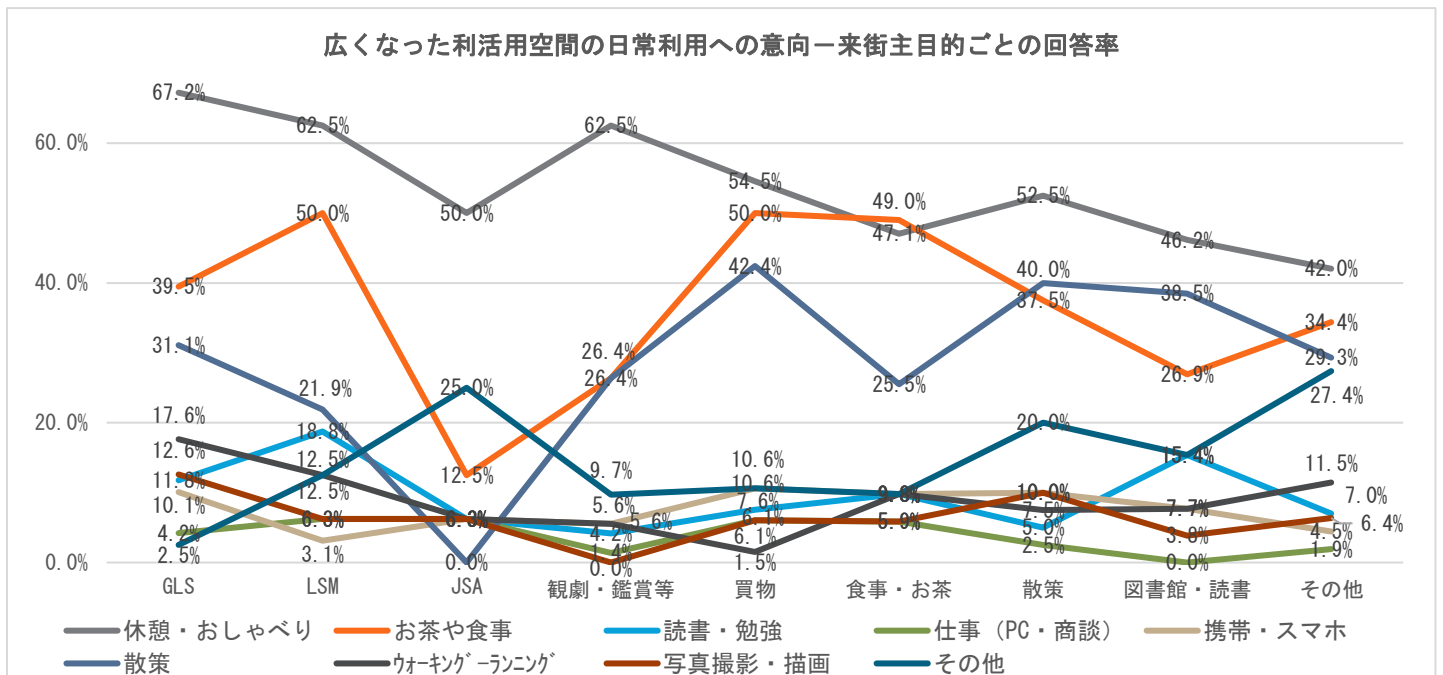
⑤ 歩道が本日のように使われることについてどう思うかー来街主目的ごとの回答率



調査日のように歩道が利活用されることについて、ほとんどの主目的で「エリアに活気が出てよい」が約7~8割と高く、「訪れるきっかけになる・訪れなくなる」も約3割程度となっている。特に、LSMが来街目的の方はそれぞれ約9割、約5割と回答率が高く、図書館・読書の方はそれぞれ約5割、約2割と低くなっている。LSMの継続的な実施による意識の変化の可能性が考えられる。

また、JSAが来街目的の方については、その他の回答者よりも「休憩スペースができて、出かけやすくなった」が低く、「歩行者の安全対策が必要」が高くなっている。

⑥ 車線規制により広がった利活用空間の日常利用に関する意向—来街主目的ごとの回答率

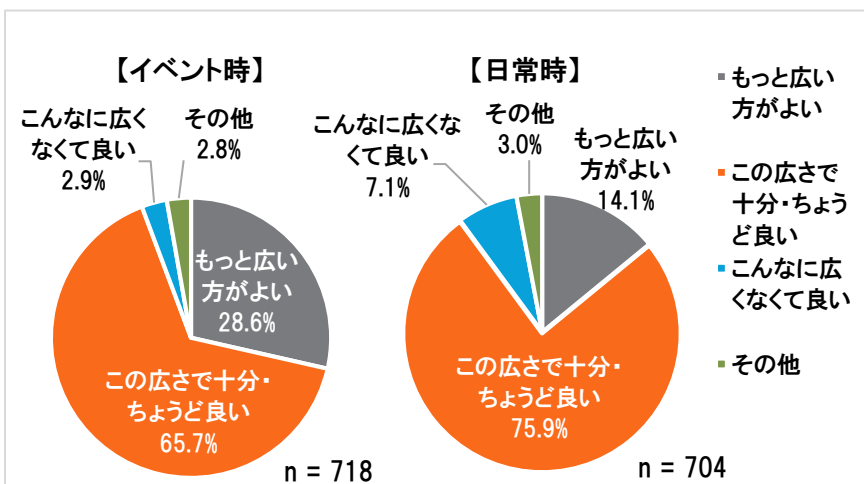


通常時より広がった利活用空間の日常利用について、調査日当日に体験したことが回答に反映されていることがうかがわれる。例えば、GLS、LSM、観劇・鑑賞等が来街主目的の方は「休憩・おしゃべり」が6割以上となっており、LSM、食事・お茶の方は「お茶や食事」が高くなっている。(観劇・鑑賞等のために宮城県民会館を訪れた方たちは、JSAで設置したパークレットで開演までの待ち時間を過ごされている姿が見られていた。)

一方で、JSAが来街主目的の方は、他のイベント参加者に比べて「休憩・おしゃべり」も「お茶や食事」も回答率が低くなっている。

利活用空間の日常的利用については、社会実験等をとおして実際に体験してもらうことが、市民の意識醸成につながる可能性がある。

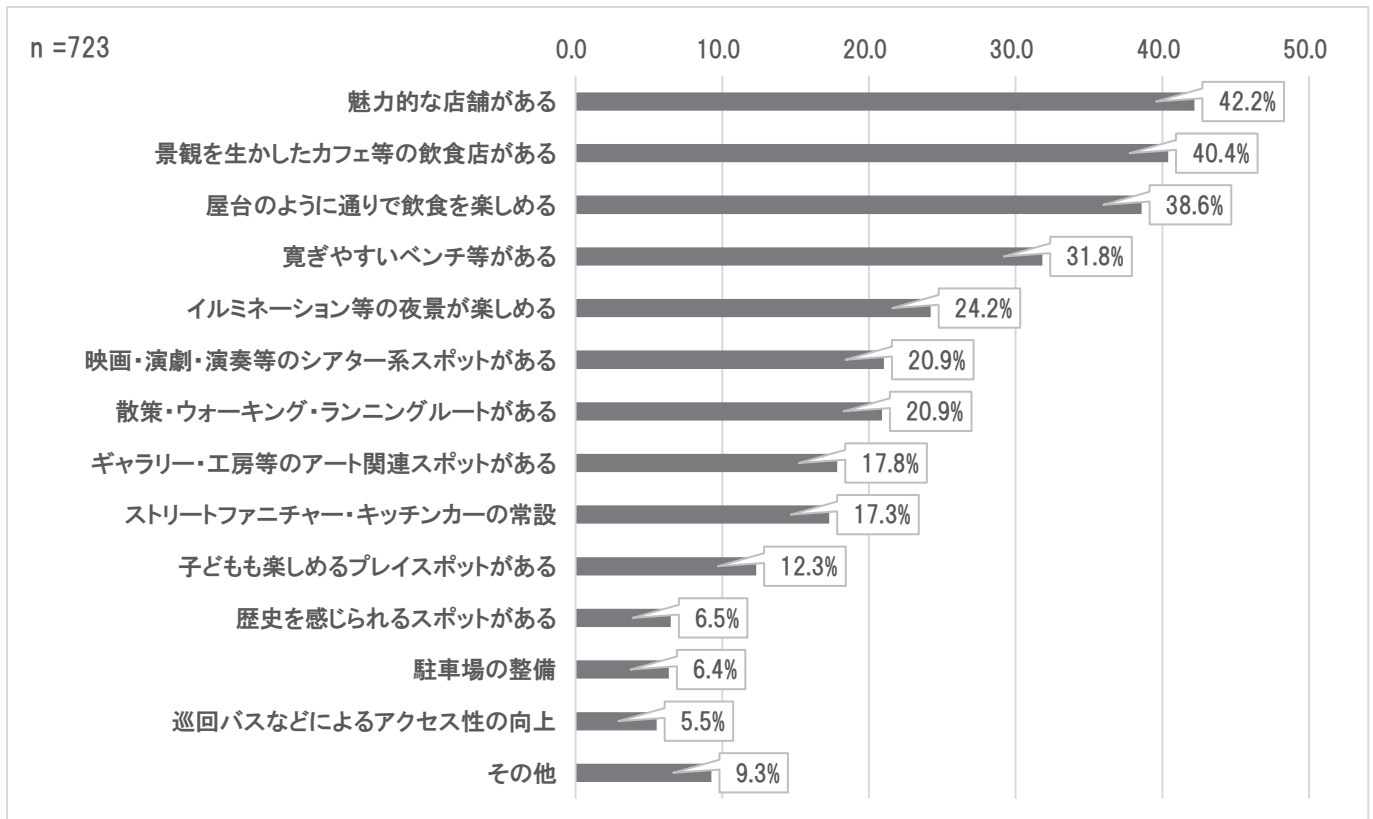
⑦ イベント時、または日常時において、人のための空間(利活用空間)は1車線規制で十分か(単純集計)



利活用空間の広さについて、イベント時・日常時とも「この広さで十分・ちょうどよい」との回答が約7~8割を占めている。また、イベント時については、約3割が「もっと広い方がよい」と回答している

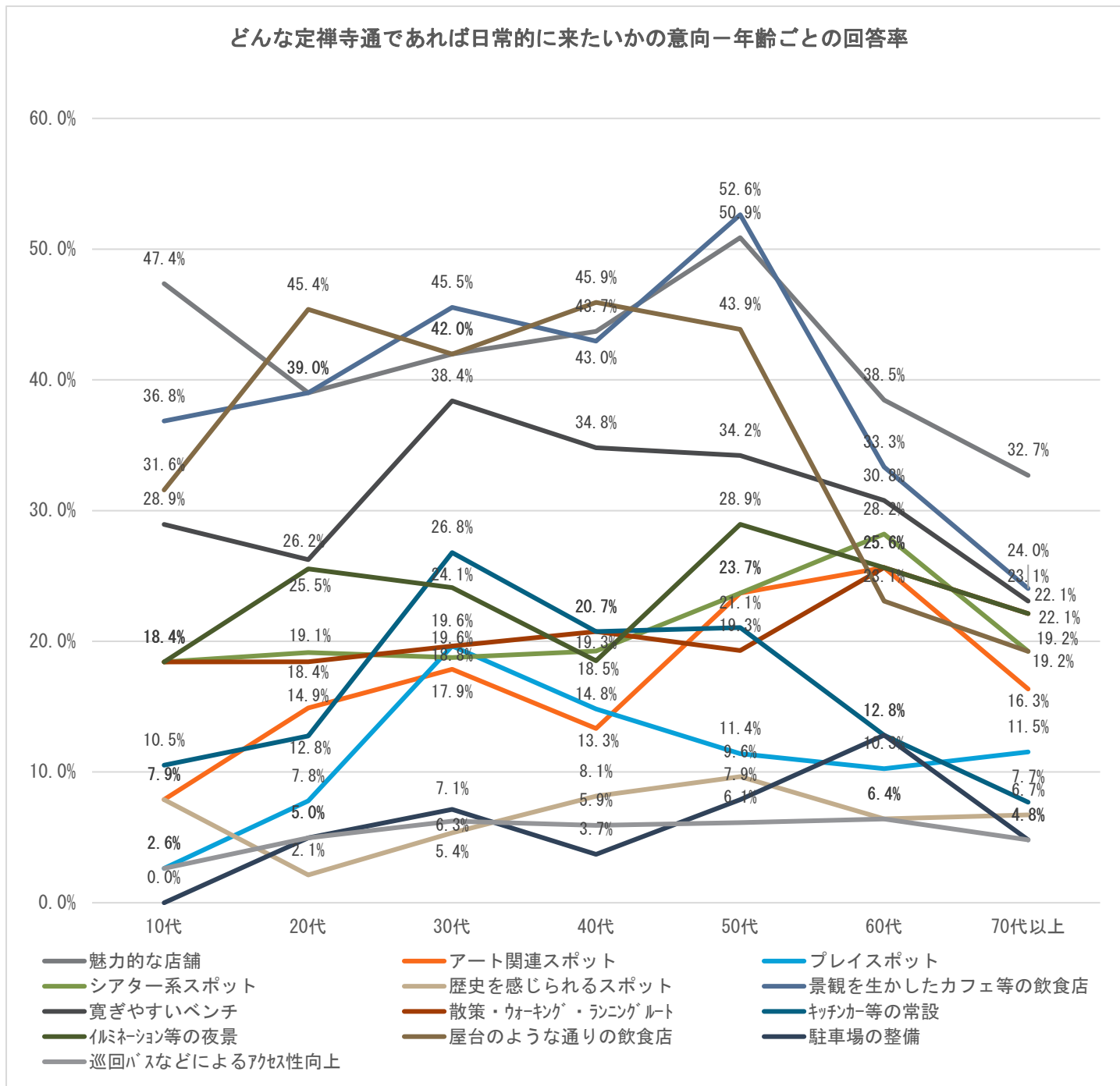
### 3-5. どんな定禅寺通エリアであれば日常的に来たいか

#### ① どんな定禅寺通エリアであれば日常的に来たいか(単純集計)



日常的に訪れたいと思うための要素について、回答者の約4割が「魅力的な店舗がある」、「景観を生かしたカフェ等の飲食店がある」、「屋台のように通りで飲食を楽しめる」を選択している。次いで、「寛ぎやすいベンチ等がある」や「イルミネーション等の夜景が楽しめる」も多くなっている。

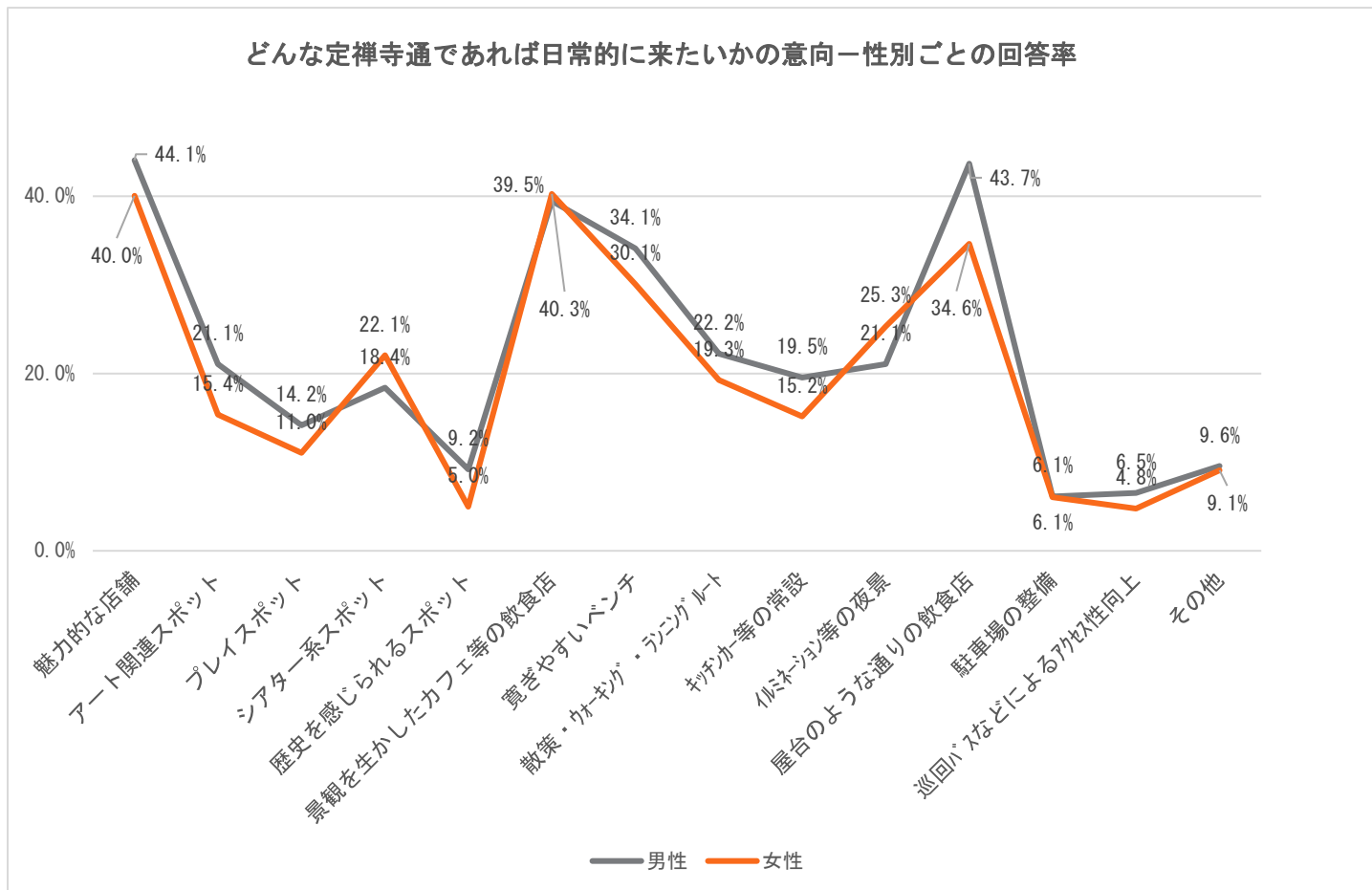
② どんな定禅寺通エリアであれば日常的に来たいか一年齢ごとの回答率



どんな定禅寺通エリアであれば日常的に来たいかについて、「魅力的な店舗」「景観を生かしたカフェ等の飲食店」「屋台のように通りで飲食を楽しめる」については、20~50代の回答率が高くなっている。子育て世代である30代は、「子供も楽しめるプレイスポット」「ストリートファニチャー・キッチンカーの常設」「寛ぎやすいベンチがある」の回答率が他の年代よりも高くなっている。

エリアへのアクセス性に関しては、「巡回バスなどによるアクセス性の向上」は全年代において約6%以内となっており、「駐車場の整備」については60代が12.8%と他の年代よりも多くなっている。

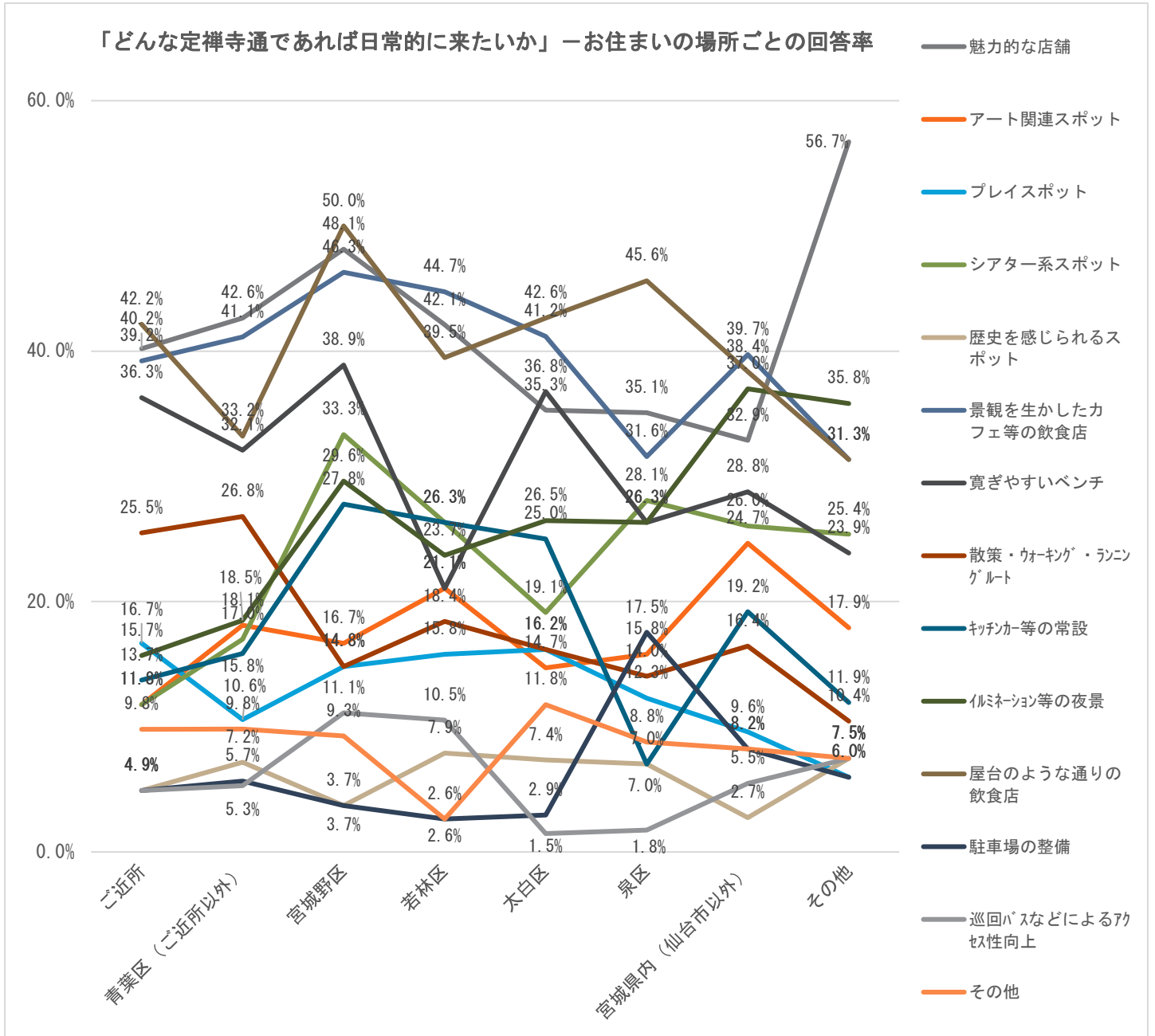
③ どんな定禅寺通エリアであれば日常的に来たいかー性別ごとの回答率



「屋台のように通りで飲食を楽しめる」、「ギャラリー・工房等のアート関連スポットがある」について男性の回答率が女性より高くなっており、「イルミネーション等の夜景が楽しめる」、「映画・演劇・演奏等のシアター系スポットがある」について女性の回答率が男性より高くなっている。

また、性別を問わず「魅力的な店舗がある」、「景観を生かしたカフェ等の飲食店がある」の回答率が高くなっている。

④ どんない定禅寺通エリアであれば日常的に来たいかーお住まいの場所ごとの回答率



ご近所及び青葉区の方は「魅力的な店舗がある」、「景観を生かしたカフェ等の飲食店」の回答率が4割程度と高くなっているとともに、「散策・ウォーキング・ランニングルートがある」の回答率も他地域に比べて高く、日常生活上の魅力向上が望まれていることがうかがわれる。(ご近所については、「屋台のように通りで飲食を楽しむ」と「寛ぎやすいベンチ等がある」も4割程度の回答率となっている)

エリアへのアクセスに関しては、宮城野区、若林区の方は「巡回バスなどによるアクセス性向上」が、泉区の方は「駐車場の整備」の回答率が他地域に比べて高くなっている。

また、県外の方は「魅力的な店舗がある」が約6割を占め、市外や県外(=その他)の方は、「イルミネーション等の夜景が楽しめる」が市内の方より高く、観光的要素の魅力向上の必要性が推測される。